

蔵出しお宝ニュース

— 第 34 号 —

三原市歴史民俗資料館では、所蔵資料の本格的な整理・展示のリニューアルに取り組んでいます。
本紙では、資料館内で長らく眠っていた三原市ゆかりの貴重な資料の解説と行事の案内・紹介などを
随時行って参ります。

「第3回 みはら雛まつり展」開催

平成 26 年 3 月 1 日（土）から 3 月 16 日（日）までの 16 日間、当館 1 階で「第 3 回 みはら雛まつり展」を開催いたします。みはら雛まつり展は 1 回目を市民ギャラリー、2 回目をうきしろロビーで行いましたが、今年は当館内で開催することとなりました。



ロビーには、市内で所有されている雛人形を数組、10 段に所狭しと配列した「三原浮城雛」を飾ります。

1 階展示室では江戸後期に作られた上品な顔立ちの古今雛や古伊万里の瓶子、用瀬の流し雛や大内人形などのご当地雛、昭和 20 年代に作られた御殿雛、昭和 50 年代の 7 段飾り、江戸末期から大正時代頃まで三原地方で作られ、初節句の家に贈られた三原人形など、雛人形を時代に沿って展示いたします。

また、うきしろロビーや本町中央通商栄会、帝人通商栄会などでも「みはら彩るまち歩きおひなまつり」〔2 月 27 日（木）～3 月 16 日（日）〕が開催されています。詳しい行事内容は広報みはら 3 月号やチラシをご覧ください。

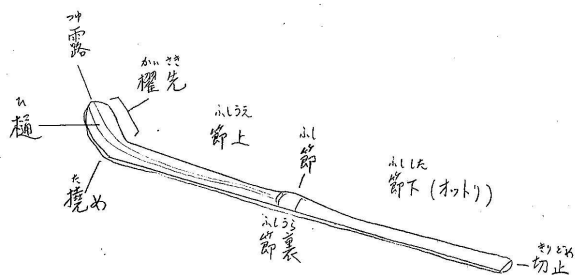
本展示により、春の訪れを感じていただければと思います。



（左上）古今雛 江戸後期 個人蔵

（左下）御殿雛 昭和 20 年代 個人蔵

文化講座「^{ちゃしゃく}茶杓 削り」好評



平成 26 年 2 月 15 日（土）に当館 1 階ロビーで茶杓削り教室を開催しました。午前と午後で各 10 名募集いたしましたところ、すぐに定員がいっぱいになりました。

茶道で抹茶を^{すく}掬う時に用いる^{きじ}匙が茶杓です。古くは茶会のたびにお招きした客のことを思いながら亭主が自ら削ったものです。作者の心境が映り、竹の持つ景色・味わいが感じられる茶杓は茶道具の中でも特に珍重されています。

当館学芸員の山崎が講師を務め、最初に茶杓の歴史と削り方を説明しました。その後約 1 時間 30 分、実際に茶杓を削っていきました。

作業としてはあらかじめ割り竹を“く”の字に曲げてあるものを小刀で荒削りをし、紙やすりで形を整えていきました。失敗すると^{かいさき}櫛先と呼ばれる抹茶を掬う部分が細くなってしまうますが、皆さん慎重に削られたため、姿のよい茶杓になっていきました。また、^{うすちやき}薄茶器に乗せた時に落ちぬよう、前後のバランスを最終的に調節していきました。作品を鑑賞させていただきますと、素晴らしいものばかりでした。

なお、茶杓を湯や水に浸けて洗うことは、櫛先が戻ってしまうため厳禁です。茶杓を用いた後は、布巾やティッシュのような柔らかい布で乾拭きしてください。

この講座を通して日本が誇る伝統文化の一端と“おもてなし”の心を身近に感じていただけたのではないかとうれしくいたしております。

（左上）茶杓削り教室の風景

（左中）茶杓の名称

（左下）受講された方が削られた茶杓

発行 平成 26（2014）年 2 月 28 日

〒723-0015 三原市円一町二丁目 3 番 2 号

三原市歴史民俗資料館

TEL 0848-62-5595

※本冊子に掲載の写真などは、許可なく転用などしないようお願い申し上げます。